



今月は、内視鏡センター長の中原と消化器内科副部長の氣賀澤より内視鏡センターについてご紹介させていただきます。
対象となる患者さまがおられましたら是非ご紹介をお願いいたします。

内視鏡センターからのお知らせ



内視鏡センター長
消化器内科
主任部長
中原 征則

消化器内視鏡部門は、日本消化器内視鏡学会により指導施設として認定されています。

日本消化器内視鏡学会指導医3名、専門医（指導医を含む。）6名をはじめ消化器内科医15名（専攻医を5名含む。）にて内視鏡検査や治療にあたっています。

令和2年度（2020年度）の総検査・処置件数は6,190例です。新型コロナウイルス感染症の影響で、件数は前年度より減りましたが、十分な安全対策を行い、診療を継続してまいりました。

現在、ワクチン接種も進み、検査を受ける患者さまは徐々に増えています。

2020年度の主な検査・処置

部位	件数
上部内視鏡	3,428
下部内視鏡	1,077

手技	件数
大腸EMR/CSP	961
食道・胃・大腸ESD	91
超音波内視鏡	154
ERCP関連	209
上部止血術	78
胃瘻造設術	39

	医師名
指導医	今井 尾下 中原
専門医	今井 尾下 中原 澤井 山口 氣賀澤



医療機関の先生方へ

地域に開かれた施設として利用していただけるように日々改善を図り、地域医療との連携に対し、より貢献できるように励みたいと考えています。よろしく願いいたします。

● 診察・検査の予約

医療機関からの予約方法

市立池田病院診察予約申込書（FAX送信用）

地域医療連携室

診療・検査 予約日時の調整

紹介元へ予約券をFAX送信

早期膵癌診断への取り組み



消化器内科
副部長
氣賀澤 齊史

膵癌は予後不良な疾患ですが、10mm未満で膵癌と診断して治療がなされた症例では5年生存率が良好であったことが報告されており、いかに早期に膵癌を診断するかが重要となっています。

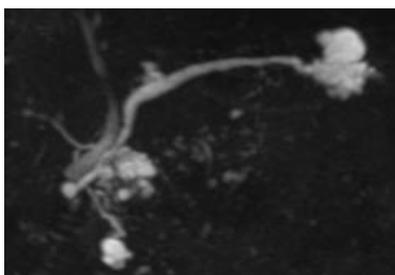
当院では、腹部超音波検査や造影CT、MRCPなどで、膵腫瘍や膵管狭窄が疑われる症例に対して、超音波内視鏡検査(Endoscopic Ultrasonography: EUS)や内視鏡的逆行性膵管胆管造影(Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatograph : ERCP)での精査を行っており、膵癌の早期診断につながっています。

超音波内視鏡検査(Endoscopic Ultrasonography: EUS)

体表からの超音波検査よりも膵臓に近接して観察ができ、消化管ガスや脂肪の影響が少なく詳細に病変の評価が可能です。膵腫瘍を認める際は、病変を穿刺して病理評価に必要な検体を採取(EUS-guided fine needle aspiration: EUS-FNA)し、良悪性の診断を行っています。

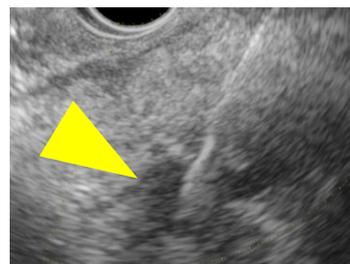
症例：

膵のう胞の増大を認め、EUSでの精査を行った。のう胞内に不整な結節を認めたため、手術加療となり、非浸潤癌の診断であった。



症例：

CA19-9上昇精査のためEUSを行ったところ、膵頭部に8mmの腫瘍を認めた。EUS-FNAで腺癌と診断した。

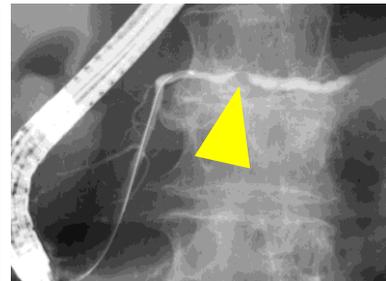
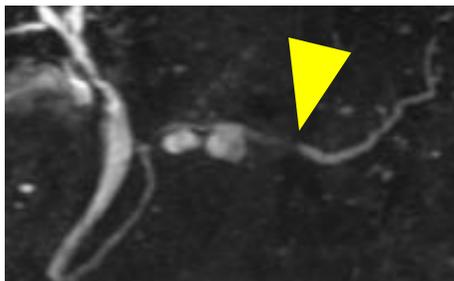


内視鏡的逆行性膵管胆管造影(Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatograph : ERCP)

膵管狭窄を認める症例は、EUSで腫瘍を認めなくとも狭窄部に上皮内癌が隠れている可能性が考えられます。十二指腸乳頭部より膵管へ細いチューブを挿入し、膵管狭窄部から病理検査に必要な細胞を採取して、悪性細胞があるか評価を行っています。

症例：

MRCPで膵体部の主膵管狭窄を認めたため、ERCPでの細胞診を行い、上皮内癌と診断した。



画像的に膵のう胞や膵管拡張を認める症例、新規糖尿病発症例、糖尿病増悪症例、血清中の膵酵素やCA19-9値上昇を認める症例などは、膵癌のリスク因子とされています。黄疸や腹痛が持続する症例も膵癌による症状の可能性が考えられます。こうした患者さまがおられましたら、当院で精査やフォローをさせていただきますので、ご紹介くださるようお願いいたします。



当院は地域医療の拠点病院として、今後も地域医療に貢献していく所存です。何卒宜しくお願いいたします。